

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探求コース 多文化共生・多様性コース			訪問国	フィリピン
学校名	藤枝東高校	氏名	長谷川葵	学年	2 年

1. 応募理由

146ヶ国中125位、47都道府県中42位、これらの順位は日本そして静岡のジェンダーギャップ指数を指しています。静岡の順位がこんなにも低迷しているのは致命的です。逆に、静岡は貧困率が47都道府県で1番低いです。それなのにジェンダー平等が進まないのは何故か？静岡の現状を再確認し解決するために、ジェンダー平等が進んでいる地域に実際に行き、自分の目でジェンダー平等に関する様々な取り組みを見てみたいと考えました。静岡のジェンダー平等を進め、更に良い県にするためには、この事業に参加する必要があると感じました。フィリピンはジェンダーギャップ指数がアジアでトップですが、セブ島は深刻な貧困問題に悩まされています。貧困問題を抱えているのにもかかわらず、何故ジェンダー平等が進んでいるのか。ジェンダー平等と貧困の観点で静岡と真逆の環境に実際に行くことで、新たな知見を広げたいと考えました。

2. 研修内容など

8/1	木		出発 セブ到着
8/2	金	終日	オリエンテーション 探究活動：貧困地域の人々の様子を観察アンバサダー活動：風船で遊ぶ、炊き出し活動
8/3	土	終日	探究活動：教会や博物館に行き、セブ島の歴史を学ぶ探究活動：孤児院で子どもたちにインタビューアンバサダー活動：孤児院で子どもたちとダンス（ソーラン節、ラジオ体操）
8/4	日	半日	探究活動：海上スラムでの生活の様子を観察する、インタビューアンバサダー活動：子どもたちと塗り絵やシール
8/5	月	終日	探究活動：セブの海洋調査、ゴミの状況チェック（オスロブ地域）
8/6	火	半日	探究活動：孤児院を訪問し、様子を観察するアンバサダー活動：子どもたちと塗り絵やダンス、折り紙
8/7	水	終日	探究活動：現地貧困の高校生、大学生たちとの意見交換探究活動：高校を訪問し、生徒たちにインタビューアンバサダー活動：「アルプス一万尺」
8/8	木	半日	探究活動：小学校を訪問し、生徒たちにインタビューアンバサダー活動：だるまさんがころんだ
8/9	金	終日	探究活動：現地貧困の高校生、大学生たちとの意見交換探究活動：海上スラムにある家庭を訪問し、インタビューアンバサダー活動：参加者でうどんを作り
8/10	土	半日	探究活動：孤児院で子どもたちと話をするアンバサダー活動：静岡産のお茶の試飲会
8/11	日	半日	探究活動：山村集落にある家庭を訪問し、インタビューアンバサダー活動：子どもたちと風船で交流活動
8/12	月	終日	探究活動：海洋調査、ゴミの状況チェック（マクタン島）
8/13	火	半日	探究活動：海上スラムでのインタビューアンバサダー活動：子供達にパブリカダンス



8/14	水	半 日	探究活動：小学校を訪問し、生徒たちにインタビューをするアンバサダー活動：日本語での挨拶や自己紹介
8/15	木	終 日	戦没者追悼式参加 探究活動：学校を訪問し、生徒たちにインタビューアンバサダー活動：折り紙で鶴の折り方
8/16	金	半 日	探求活動：山村集落を訪問し、話を聞くアンバサダー活動：シャボン玉で遊ぶ、一緒に折り紙
8/17	土	終 日	探究活動：現地貧困の高校生、大学生たちとの意見交換探究活動：墓地スラムを訪問し、インタビューアンバサダー活動：子供達とダンスをする、バスケ
8/18	日	半 日	探究活動：海上スラムを訪問し、インタビューをするアンバサダー活動：塗り絵をする、パラバルーン
8/19	月	終 日	自由行動
8/20	火	終 日	マンゴー工場見学探求活動：ゴミ山スラムを訪問しインタビュー
8/21	水		帰国日



3. 感想

私が現地でさまざまな人と交流して感じたことは、フィリピン人は本当に自分らしく生きているということです。自分らしく生きることが、フィリピンにおいて女性の社会進出につながっていると感じました。しかし、これを別の側面で見ると、フィリピンは男性や女性、そして子どもも含めて家族総出で働かないと十分な収入を得られない、という見方ができます。私がこの留学で1番心に残ったことは、キーホルダーを売って生活している14歳の女の子の1番笑顔になった瞬間が、家族の話をするときでも学校の話をする時でもなく、お金をもらった瞬間であったことです。私はその笑顔を見て、彼女はお小遣いのためでも趣味のためでもなく自分たちの生活を確保するために稼いでいるのだと改めて再認識させられました。また貧困層ではまだまだ男女の教育格差も見られたり、フィリピン自体綺麗な水が水道から出なかったり道路が陥没していたり、貧困以外の課題もたくさん残されていると感じました。また、留学を通して私たちはもっと我儘に生きてもいいと強く感じました。私たち日本人は、様々なことにおいて「こうあるべき」といった固定概念が強いです。しかし、ひとりひとりがもっと自分らしく自由に生きることで、日本の成長につながると考えます。